

教育目標

心身ともに健やかで、心豊かな子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組		取組の状況
夢中になって遊ぶ子供を育てる	遊びの中でみえてきた学びを読み取り、適切な環境や援助を探る	体験活動の充実	豊かな体験活動	秋に近畿音楽教育研究会での公開保育があった。遊びの中で、子供が自ら考え、工夫することができるよう環境構成を行った。園庭の遊具や用具を精選したことで、子供が遊びを自ら考えだすことができていた。
			地域散策や園外保育の充実	遠足で緑花センターに、また地域の和歌山城公園、中消防署等にも園外保育に出かけた。本物に触れたり、季節を感じたり、自然に触れたりする等の活動を行った。県立博物館で園児の絵画の展示も行った。
			園内環境の工夫	花壇やプランターで、四季折々の花や野菜を育て、遊びに使えるような環境構成をした。サツマイモを栽培し、バターで焼いておやつにした。園内の斜面を生かし、子供が工夫して芝すべりができる環境を整えた。
		豊かな感性や心身の育成	自然とのふれあい	春には、花で色水遊びをし、夏は水遊びや泥んこ遊びで、子供たちの興味を高め、遊びに生かしている。JAの協力をいただき、ブロッコリー、大根の栽培を通した食育にも力を入れた。
			生き物とのふれあい	園庭のバッタや幼虫やダンゴムシにも興味をもって捕まったり、観察したりする遊びの教育環境を整えた。また、二羽のウサギの飼育では、子供の心の教育となった。グッピーやメダカも育てている。
			様々な人とのふれあい	近隣の和歌山大学附属小学校1年生と5歳児の年間を通しての交流遊びを行った。4歳児が和歌山城公園動物園と一緒にチモシーを育てることも楽しんだ。また、わくわくタイムでゲストティーチャーの方も来てくださっている。
		子育て支援の充実	保護者への啓発	行事の様子や子供たちの活動の様子などをホームページや写真の掲示を通して、園での取組みを発信している。園だよりやクラスだよりも発信している。保護者同士の交流も盛んで、積極的に園行事に参加してくれている。
			保護者との連携	附属中学校音楽部の親子コンサートや親子での体操教室も行った。降園時等に子供の様子や活動の様子を伝えたり、絵本作家のしきやかさんの講演会を開催したりして、家庭との連携を深めることに努めている。
			親子のふれあいの場の提供	未就園児の集いを行って、親子のふれあいの場を提供した。年間計画を立てて、集いを実施することで幼稚園に足を向けてくれる人数が増えている。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

- ・いつもありがとうございます。一人一人に声かけをしてくださり嬉しく思っています。
- ・いつも細やかに子供を見ていただきありがとうございます。お友達の姿を見て、今までしなかった遊びをするようになりました。
- ・どの先生も感じがよく、信頼できる方ばかりです。出産と入園が重なり不安でしたが、岡山幼稚園に入園してよかったと思います。
- ・駐車場が少しでもあればよいと思う。
- ・小学校がみんな別々になってしまうので、仕方がないとわかっていても残念です。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

本園は小学校と併設していない単独園ということもあり、特色を生かしながら様々な活動を教育に取り入れている。園児が遊びの中で学ぶということを大切に、子供主体の遊びや園生活ができるような配慮と援助をしている。3歳児から5歳児までの3年間での学びや経験の積み重ねを大切にしている。また、放課後の預かり保育を18時までとし、就労している保護者の方に利用してもらっている。地域への発信として、今後も未就園の集いに参加して下さる親子に幼稚園について知ってもらう機会を大切にしながら幼稚園について知らせていきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・園児たちが自分たちの世界を作り上げていく様子から岡山幼稚園の教育力が認識できた。
- ・子供たちは遊びの中から集中力、工夫する力、協調性、コミュニケーション能力等、必要とする力を学び、さらに失敗したときにはそこから教訓を学ぶ力等、とても良い学びを受けていると感じました。
- ・園児がどの子も自分の遊びに没頭しており、日ごろから子供の気持ちを大切にしているのが良くわかった。
- ・学年の違う子供たちが自由に遊んでいる様子が、お互いの刺激にもなり、とても良いと感じた。
- ・5歳児が何かもめており、話し合う姿があった。教師が「じゃあ、どうする?」と問いかけをして、子供たちが自分で考える場面があり、良かった。
- ・教師が子供たちとの対話を大切にしており、話し合いで決める習慣がついていると感じた。
- ・食べられる果実、野菜が身近にあり、食育の観点から実体験として学べる環境である。